

食の大切さを伝える取り組み～乳幼児から学童期～

健康推進課主催の教室の一部をご紹介します

赤ちゃんふれあい体験学習



市内の小学5・6年生の親子を対象に赤ちゃんとのふれあいをとおして、いのちの大切さを学ぶ体験学習を実施しています。いのちの成り立ちについての講話、赤ちゃんとのふれあい体験のほか、離乳食についても、小学生が実際に赤ちゃんに食べさせたり、自分でも試食をしたりします。

赤ちゃんが笑ったり泣いたりする様子を見たり、子育てをするお母さんから話を聞いたりして、学校ではなかなか体験できない経験をします。「赤ちゃんは可愛かった」「私はとても奇跡的に生まれてきたことがわかったので、いのちを大切にしたいと思った」など参加した小学生からは、普段ふれあう機会の少ない赤ちゃんとのふれあいをとおして、新鮮な驚きや感想が聞かれました。



離乳食教室



子育て中のお母さんを対象に、離乳食の味付けや調理方法等を学んでもらうため、管理栄養士による教室を実施しています。

離乳食作りをデモンストレーションし、お母さんに試食してもらいます。実際の離乳食の固さや味の薄さを体験してもらうことで、より具体的な感覚を身につけられます。楽しく育児に向き合えるよう管理栄養士がお手伝いをしています。希望者には、保健師による子育て相談も実施しています。

